



華頂山 西願寺 本堂 (寺院紹介は4 P)

空知南組

組

報

創刊号

1986. 11. 1

発刊

「組報」発刊に寄せて

空知南組 組長 杉田 英明



秋冷の候、皆様にはお変わりなく御健勝にてお過ごしのことと存じますが、いかがですか。

さて、年度当初より念願しておりました「組報」がいよいよ発刊されることになりましたこと、誠に大慶に存じます。関係委員の方々の御協力に対し、心から感謝申し上げます。

めまぐるしく変わる社会の中にあつて、「真宗安心のことならいくらでも話すが、靖國問題などは他の人に聞いてくれ」的真宗信心の在りようが深く反省せられて、宗門にあつては基幹運動の理念が打ち出されて来たのでありましょう。三期十二年の宗門長期計画の第三期初年度に当たるとは、益々総括の性格を強め「全員聞法・全員伝道」の掛け声の下、とにかく僧俗全員の自主的運動参加が期待されていることとあります。

当組に於いては、今年に御門徒議員の御参加をいただいて組合がもたれましたが、教化推進についても、各組織の皆さん方の御意見等もいただき進まねばならないと考えておりますが、何よりも各御寺院のユニークな情報交換も是非はかられて、組内の和合と運動の実践にこの「組報」が役立って欲しいものと願われることとあります。

ともあれ、困難な課題の多い現代社会にあつて、最も願わしい組の機能発揮の一方策としての地位がより一層確認せられますよう、皆様方のあたたかい御支援御協力を心より御願ひ申し上げます。そして、「組報」発刊に当たつての御挨拶と致したいと存じます。

担 任

三 日

《唯専寺 報恩講》

私の寺の報恩講は初連夜より満日中まで三日間勤修いたします。

報恩講は「私たちの手です」とめましよう」を合言葉に、本山のスローガンを中心に、別にテーマを選びお迎え致します。今年のテーマは、真の念仏の相続者となるう。でした。例年、大連夜法要に引き続き物故者追悼音楽法要が勤まります。この法要は昨年の報恩講から今年の報恩講まで物故された門信徒方々の追悼会で、坊守のエレクトーン演奏で仏社会員婦人・仏社会員がコーラスをつとめます。歌は「衆生」「宗歌」「法の深山」「み仏に抱かれて」そして恩徳讃を斉唱します。(コーラスと云ってもまだまだ歌の稽古が必要です)又、初夜法要に代わり「門信徒の集い」親鸞聖人を讃える夕べが催されます。門信徒会総出の夕べです。

一部式典——住職から宗祖前のおとしびを下陣の責任役員総代に手渡し、それを門信徒会長が中央の燭台に点火、総代・役員・婦人会・壮年会・ボーイスカウト・日校生により献花献灯が行なわれ、一同で正信偈を唱和します。二部は布教使の講話、三部はビデオ又は映画(宗教関係)。もう一つの催しは壮年部唯心会の世話での門前市です。中日だけ境内で、うどん・そば・菓子・くだもの・酒類が店に並び休憩所もあり法要の合間に参詣人が出入りし賑わいをなしています。

唯専寺住職 吉野 了乗

《報恩寺めぐみ日曜学校》

私達の日校は、去年の六月より開校しております。活動内容は月二回の集まり、夏休みのサマースクール、報恩講お初夜の音楽法要等です。勢いで始めた日校、予備知識も何もなく最初の二ヶ月くらいはなかなか思い通りには行かなく、悩んだ時期もありました。

報恩寺副住職 辰田 真弥

連 研 ニ ュ ー ス

《第二期連研はじまる》

空知南組第二期連続研修会が今年度よりスタートされることとなった。組内各寺院より四十三名(男二十六・女十七)の受講申し込みがあり、七月から六、七月までの隔月十二回の研修会が開催される。ま、こ

の連研には第一期終了生の門徒推進員の三名も、運営面で積極的にお手伝いしてくれている。

七月十七日、願王寺を会場に組内各僧侶と三十五名の受講生が集う中、開会式並びに第一期研修会が開催された。開会式では全員に登録証が授与され、念仏の輪を広めてゆく推進者となることを誓い、引き続き研修会では、「どうしてさまざまな宗教が存在するのか」という問いをもとに話し合いが行われた。

九月二十日、願王寺を会場に第二回目の研修会が開催され、正信偈のおつとめの練習の後、「宗教と道徳」について話し合いが行われた。

尚、今期の連研講師は後志組明善寺住職・鹿谷法純師で次回は十一月十五日(於願王寺)で「浄土」について話し合われる予定である。

御 同 朋 の

社 会 を

め ざ して

組の動き

◎第四十五回空知南組九ヶ寺連合仏教婦人大会が去る六月二十四日、長沼町誓報寺に於いて開催されました。大会は

仏婦総連盟名誉総裁・大谷嬉子様、御臨席のもと、午前十時より追悼法要・記念式典・記念講演（名誉総裁様）・記念撮影が行われ、参加した約

五五〇名の会員はこの法縁を喜ぶとともに、仏教婦人としての決意を新たにしましたことでありました。

尚、九ヶ寺連合は今大会で解散となり、今後はそれぞれのブロックにて婦人会活動を行うこととなりました。

◎空知南組僧侶研修会が去る七月十四日、長沼町誓報寺で龍谷大学教授・普賢晃寿師を迎え、約四十名の参加者のもと「悪人正機と真宗倫理」と題してご講義をいただきました。

◎北ブロック仏婦大会が去る

六月八日、我路町常光寺にて参加者一四〇名のもと講師に北塔光昇師を迎え「いじめといのち」と題して開催されました。

◎中ブロック仏婦大会が六月十四日、岩見沢市光明寺で二六〇名の参加者のもと開催されました。

講師に根室組本覚寺・加藤泰行師を迎え、加藤師の復活術等の他、仏壇の荘厳等のビデオが上映されました。

◎空知南組寺族婦人大会（藤堂憲子会長）では、九月二十五日、旭川方面への研修旅行を開催しました。ユーカラ織工芸館を見学の後旭川市本誓寺・天寧寺を訪問し、各御住職

のお話しをいただきました。参加者は八ヶ寺九名でした。

◎空知南組日校研修会が十月十二日、岩見沢公園で開催されました。参加者は七十七名で野外において仏讃・ゲーム・奉仕活動（清掃）等を行い、盛会のうちに閉会しました。

◎空知南組寺族婦人大会が五月三十日、奈井江西本寺にて会員十七名の参加により開催。

◎第一回空知南組仏徒研修会七月二十日午後一時三〇分より奈井江西本寺にて四十五名の参加者。講師は殿平善彦師。

（その他）

◎北藤会総会（吉野顕隆会長）が去る六月九日より十日まで長沼町誓報寺・馬追コミュニティセンターにて全道各地より三十五名参加のもと開催されました。講師に玉田哲男農学博士を迎え「バイオテクノロジーについて」と題しお話をいただき、

会員一同熱心に耳をかたむけました。

夕には懇親会を設け、会員相互の親睦を深め、翌日には「陶芸教室」にて石坂勝美先生（道展会員）のご指導のもと「湯のみ作り」をして、記念に会員自作の湯のみ茶碗をお持ち帰り頂きました。

◎全国真宗青年の集い北海道大会が七月二十六日より二十七日の二日間にわたり開催されました。全国より約九〇〇名の若者が集い、空知南組よりは栗沢町報恩寺仏青会員・鎌倉利男さんをはじめ二十六名の方が大会に参加しました。

「わたしお嫁さん来ます」（パート1）

ご存知ではあるうかと思いますが、由仁の本覚寺の若院さんが結婚することに相成りました。お相手は、松永芳子さん（24）で、長崎は佐世保出身です。共に龍大真宗学の同期で伝道部に籍を置くうちに相思相愛の仲となったふとどきなカップルです。（龍大を目指す娘さん！伝道部は要注意）。しかもペアで得度したというから許せない。今月八日、七年間の交際の末ついにゴールイン。まずはめでたし、めでたし。ようこそ空南へ、おめでとございます。

☆栗山町唯専寺では、七月八日、第三世住職継職奉告法要が厳修されました。午前十時三〇分より法要・移譲式・記念式典・祝賀会が行われ、門信徒の見守る中、五十年間務められた吉野了顕師より吉野了乗師へ住職の任がバトンタッチされました。

♡奈井江西本寺坊守・藤堂憲子様が北海道寺族婦人会連盟会長に御就任されました。寺族婦人会のより一層の充実の為、御活躍されております。

★ついに南幌町妙華寺若院さま(二十八才)が自動車運転免許証を習得されました。これまで専ら自転車愛好家でおられました。このほど文明の力には勝てず、遂に自らハンドルを握る事となりました。初心者マークの若院さまを見かけましたら、みなさん幅寄せなんてなさらないでくださいネ。

☆このほど、三笠市真法寺さまの鐘楼堂が完成いたしました。またひとつ「ゴォーン・ゴォーン(ご恩・ご恩)」とお法りの音を響かせることとなるでしょう。

★空南会(吉野顕隆会長)が岩見沢二十一世紀博にてボランティア活動に協力し、感謝状をいただきました。

組の予定

◇11月15日

第三回連研・於願王寺
午後四時より。

◇11月20日

仏婦連協研修会・於西本寺。講師・青木円成師。

◇11月20日

寺族婦人会臨時総会
於西本寺。

◇11月22、23日

Bブロック仏教壮年会・於岩見沢サンプラザホテル。講師・高塚興正師、朝日暁祐師。

◇12月6日

空知南組門徒総代総会並びに研修会・於正教寺。午前十時半より。

◇12月22日

空南会総会。

「土寸陀陀切柏入介」

華頂山 西願主守

○開基：明治二十六年十一月一日、奈江村字砂川市街地二七

三番地にて説教所開設

○移転：明治二十七年七月十七日、奈江村字砂川南二号東一

線十四番地(現在地)に移転

○寺号公称：明治三十年九月二十日出願、同三十一年六月八日認許

○開基：西川巖證、二世・西川義純、三世・西川宗一

○寺宝：無図御開山御影、證如上人六字名号

○本堂は三井木工場の流送を止めた時生じた沈木を貰いうけて軸部に使用。四間の梁は宮城の沢の神木。大正十一年落成。

垣柵佳木伐記

組の再発見的立場で発刊させていただきました。証法寺・正教寺・本覚寺・妙華寺・報恩寺各副住職、それに善行寺とスタッフを組みました。

表紙に掲載させていただきました寺院紹介にあたっては、組内全寺院紹介を目的に年二回(五月・十一月)の発行で長期計画でございます。現代感覚と現代表現を大いに活用し、「今進行中である」をスローガンに、大いにアピールの場であって欲しいと考えております。何卒皆様の「声」を反映したく思いますので、宜しくお願い申し上げます。(K・N)

組報に関する御意見・御希望等は、組長事務所または広報委員長まで御連絡下さい。

一九八六年十一月一日 創刊

発行所 空知南組 組長事務所